

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15番1号		
自己評価作成日	平成30年3月26日	評価結果確定日	平成30年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

四季折々の季節が感じられる住宅街の中に平成24年の4月に開設して今年で7年目を迎えます。訪問介護、住宅型有料老人ホームが隣接に建ち今年の5月には小規模の住宅型有料老人ホームとデイサービスも開設予定です。又近隣に保育園も完成まじかです。施設の周りでは小さな子供たちの声が聞こえています。小さな子供たちからお年寄りまでが安心して過ごせるように私たちの施設も福祉ゾーンとしての役割をはたしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある住宅街にさし仕掛かる斜面地に「グループホーム香椎下原」はあり、小規模多機能とも併設し、入居施設やデイサービスと共に周辺一帯で福祉サービスを行っている。開設当初から地域とは良好な関係を築いており、系列施設と一緒に、地域ボランティアに来てもらってレクなども楽しんでいる。ある程度日課に沿った日常生活を送ってもらい、出来る事には積極的に取組んでもらっている。最近では開設当初からの方から、最期をここで迎えたいとの希望があり、2名の方の看取りも行き、穏やかな最期を迎えられたと家族にも非常に感謝された。看護師も3名の勤務がある事で、医療支援に関しても体制が整ってきている。今後も地域を支える総合的な福祉施設としての情報発信や活躍が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和し管理者と職員はグループホームの理念を確認し、実践にいかせるように取り組んでいる。入居者様や訪問者の方々にも見える位置に掲示しています。	開設時から変わらないグループホーム独自の4つの理念があり、事務所、玄関、ホール内に掲示もしている。全職員の名札の裏にも印字され、開設時から唱和も習慣づいており、職員も暗唱できるまで馴染みが出来ている。「ゆっくりした時間の流れ～」という文言があり、それにそった行動を意識して取り組み、利用者にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に利用者様と参加させていただいています。公民館行事、子供の段ボール回収、町内会草むしりなど。菜園の野菜を無人販売したり、配ったりしています。	町内会も開設時から入会しており、地域の「水がめ祭り」や公民館の文化祭、どんど焼きなどは利用者と一緒に恒例的に参加している。施設内菜園での収穫物を無人販売し安く提供し喜ばれている。地域ボランティアとの関係が複数あり、オカリナ演奏やギター、ひょうとこなど同じ方が定期的に来てもらっている。一昨年までは秋祭りに地域を招いていたが昨年はなく、今後は検討中である。	近くに開設予定の保育園があり、時間をかけて関係を築いていきたいと考えている。小中学校との実習など子供たちとの関わりなどが広がっていいことにも期待したい。地域密着デイが開設予定ということもあり、一体となって地域への情報発信が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々に参加していただき、入居者様の日常生活の様子等を報告させて頂いています。認知症に関する勉強会を予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者様や施設の現状を知っていただき、参加者様他方からの意見をいただき、サービスの向上を目指しています。	2ヶ月ごとに併設小規模と合同で開催し、地域包括、社協、他グループホーム、病院SW、町内会長、民生委員、家族などが参加されている。家族は往復ハガキで全員に声掛けし、2,3人が来られている。消防訓練と同日開催して参加もしてもらった。現状の利用者状況、ヒヤリハットなど積極的な情報開示に努めている。以前、後見人の方に制度の説明をしてもらったこともあった。議事録は全家族にレジュメとともに郵送報告している。	認知症の勉強会などを、運営推進会議のなかで、外部講師に来てもらったの開催を検討している。今後も県の出前講座なども利用しながら変化のある会議がなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に福岡市の行政の方が参加された。「これからも、質問や相談事があれば遠慮なく連絡ください。」といわれた。すぐに行政と連絡を取れるような協力関係を築いている。	毎回運営推進会議の案内を市役所に出しており、昨年は参加もあった。欠席の際も議事報告はしている。昨年指定更新があったが軽微な指摘でスムーズに終わった。何か質問ごとや疑問点がある時はすぐに電話するようしており、担当者とのやりとりも円滑に進んでいる。生活保護者の受け入れもあり、担当者への報告も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のカンファやミーティング時に毎回話し合いをしている。日常業務の時にも、身体拘束になっていないかを、職員同士で確認しながら入居者様に接しています。	正面玄関の施錠はしていないが、ユニットの入り口は状況により適宜施錠している。必要書類等の準備しているが、原則拘束をしない方針で他の手段での対応をしている。今年から身体拘束廃止委員会を組織し3ヶ月ごとに勉強会を開いている。研修などによってスピーチロックなどにも意識を置いて日頃のケアに留意している。	

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファやミーティング時に毎回話し合いをしている。日常業務時も職員が言葉使いや行動を意識しながら、職員同士が注意を払うように意識づけに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が利用されていたので(現在退去)後見人の方に講習会を開いていただいた。内部研修でも勉強会を開き、必要性を学んでいる。	以前は、元から制度利用していた方がいたが今は退去している。実際の後見人とのやり取りもあり、関わりを通して制度に関しての理解を深めた。今後必要になりそうな方もいるが現在は静観している。毎年定期的に内部研修をしており、説明用の資料も準備している。	人員制度の配備もあるが、外部研修の参加や、外部講師を招いた研修の実施などにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、利用者とその家族の不安がないように十分な時間を設けて説明を行い、本人、家族からの質問に答え施設側の意向も十分に説明を行い納得していただいた上で契約をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置、外部機関のポスターを掲示。運営推進会議に参加されている利用者、家族の方々に意見を述べていただいています。	意見箱はあるが、意見を頂いたことはなかった。敬老会の際には家族を招き、8割方は参加され、お食事してもらった。プラン報告時に直近の状態の報告をし、変化があった際には随時、電話やメールを使って連絡している。直接の意見は面会時に頂くことが多く、7割程度は定期的に来訪がある。	職員のことが知りたいという要望もあったので、掲示板での自己紹介や、お便りの発行なども検討されてはどうか。定期的な情報開示の仕組みが作られることにも期待したい。改善報告の仕組みを考えられてもどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の社長同席の全体会議で、意見、提案を出し、社長自らが答えてられるので、解決が早い。が、持ち帰り後日管理者を通しての回答ある。場合によっては、個別に説明対応が行われている。	事業所全体の全体会議が毎月あり、パートや派遣社員も含め原則全員参加で行っている。毎回社長も参加するが、意見も上げやすくレクや行事も職員主体で企画されている。物品の購入なども準備してもらっている。管理者も現場に入っているため、個別での相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等にて、職員から現場が円滑に動くための意見を出し合い、代表者を交え話し合いをする。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、性別、年齢などの理由で採用条件から排除しない。定年年齢70歳までとし、長く働けるようにしている。資格取得や研修により、能力發揮できるようにしている。	男女比は1:9程度で、年代は30~60歳代で、定年を越えても雇用延長されて働くことが出来る。休憩時間も確保されており、スタッフルームもある。無資格でも資格取得支援に、シフトなどでフォローもしている。外部研修の案内もあり、勤務として参加も出来るが昨年は人員配置的に難しく参加はなかった。年間の内部研修で持ち回りで担当し、スキルアップにつなげている。ユニット間での異動もあり、コミュニケーションもよくとられている。	外部研修の参加や新しい情報の習得が出来るように事業所として、研修に出やすくなるような働きかけや制度改善の検討がなされていく事にも期待したい。

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者ご本人様が出来ることはして頂きながら関わりを持ち、その方の人権を尊重するように、常に職員が意識するように、業務中や会議で話し合っている。	以前は外部研修や伝達などがあつてが、昨年は研修実施がなかった。内部研修では福岡市の人権啓発センターの資料を活用して勉強会を行っている。一昨年には外部講師派遣により人権学習を行い、今年度にも7月に実施予定である。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画表を作成し、内部研修を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の勉強会や研修に参加しサービスの向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人はもちろんであるが、認知症のため、居宅支援、いきいきセンター、医療機関の相談員、看護師、家族からの聞き取りが殆どである。入居後、本人様の様子観察しながらくみ取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、入居申し込み時、ご本人様面談時に質問・相談・要望等に耳を傾け、疑問・不安を解消できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所された際に、「何が今必要か」を本人・家族と話し合い、訪問診療・訪問歯科・デイケア・訪問リハ等の利用を含めたケアプランを作成しサービスの導入をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら本人様の生活歴をふまえ、本人やりたいこと・やれることで役割を持っていただき、職員と他の入居者との関係作りを働きかけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加の依頼・他科受診等、無理のない範囲でお願いし、家族と利用者ホーム一緒に利用者を支えているという、安心感を持つる関係作りを努めている。		

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのディケア利用の継続や以前生活していた場所での友達等の面会を受け入れ、その時の関係が続くように努めている。	家族面会の機会は比較的多く、それ以外にも元の住所の近所の方が来たり、面会は自由に受け入れられている。ドライブのついでに、住んでいた地域の近くを回ったりして、記憶をたどることもあった。家族の支援で外出したり一時帰宅や、お墓参りなどに行く方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	輪に入れていない利用者がある場合、お世話が上手な利用者と一緒に声掛けしたり、利用者同士で声掛けあっている時は、様子を見守り場合により対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に連絡を取り、近況を教えていただいたり、お見舞いに行ったりし、今後の相談や支援を行なっている。ご家族がいない場合は、病院・施設に連絡を取り面会をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを利用したり、本人や家族からの思いや要望の聞き取りを行う。困難な場合は職員から様子を聞き参考にして、本人の思いに沿えるように努め提供している。	所定の様式でアセスメントシートがあるほか、関係機関から情報を頂くこともある。入居時に口頭で聞き取っている。入居後に分かった情報などは個人介護記録などに残している。昨年度内部研修でセンター方式についての学習をしたが、活用には至っていない。	後から家族から聞いた情報や本人からの情報は個人介護記録に残しているが、アセスメントにも追記して残すことで、個人の情報を充実したものにしてはどうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前からの生活の流れとしてディケア利用を継続したり、ご家族様に情報を提供して頂き、なるべくこれまでの生活ができ、ホームでの生活に慣れて頂けるように配慮している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活、身体状況を介護記録や連絡ノートに残し、毎日の申し送りやミーティング時に職員間で情報共有し、現状の把握に努めている。又、気づきがあれば、その場で話し合うようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は利用者の状態変化に合わせて、その都度見直しを行なっている。サービス内容の実施が出来たかをモニタリングにて毎日チェックしている。	ケアプランは各ユニットの計画作成担当者が行い、ケアマネが監修する。ケアプランを元にした毎日のモニタリングチェック表があり、目標なども全体で周知している。プラン見直しは随時～半年でその際に担当者会議も開催しており、必要時は医師や看護師の意見も頂いている。見直し時期にはカンファレンスで現場の意見も取り入れて活かしている。	

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身心状況は介護記録、ケアの実践・結果は毎日のモニタリングチェック表に記録を行い、連絡ノートを活用し情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望で併設の住宅型や小規模多機能から入居や逆にホームから住宅型に移られたりすることもある。家族の代わりに病院受診や買い物などの支援も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館との交流、イベントボランティアの受け入れ、入居者と地域を交えた消防訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はホームの2か所の協力医の往診を受けていますが、かかりつけ医との関係も継続できるように、定期受診の際は職員が付添いを行っている。	事業所の提携医が24時間対応で訪問診療もできるため、家族の希望で主治医変更される方がほとんどである。元々のかかりつけ医を他科受診で継続は可能で、急な場合を除き基本は家族に通院介助してもらっている。医療情報は逐次家族にも報告している。看護師の職員もいるが、訪問看護も利用して毎週2回の健康管理も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の担当看護師と当ホーム看護師が中心になって、24時間体制で連携を図っており、介護職への必要な助言や相談が出来る。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ協力医療機関に入院して頂く事で病院関係者との情報交換がし易く、管理者とソーシャルワーカーと常に連絡を行い、出来るだけ早く本人の為にホームでの生活に戻れるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医・看護師を含め、ホームで出来ること・出来ない事を話し合い協力し、本人の状態により看取りを受け入れるような体制を作っている。	看取り指針は以前から定めており、希望があれば最期まで出来る限りの支援を行う。入居時に説明し希望を伺い、重度化の際には改めて主治医を交えて同意を頂いている。昨年からお二人の方の看取りを行い、家族にも非常に感謝された。ターミナルケアに関しての内部研修も行っている。看取りプランも立てており、随時話し合いもしており、職員も経験を積んできた。提携医も親身になって緊急時対応をしてくれている。	

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファ・ミーティング・内部研修でAEDの使い方や痰吸引器の準備の仕方の講習をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間・昼間想定した消防訓練(1回は消防署立会い)を実施している。ともに入居者・家族・地域住民の方々に参加を依頼し、一緒に訓練を行っている。	以前から地域の方と一緒に消防訓練を行っており、自治会長、民生委員、周辺住民なども参加し、10名以上来られることもある。終わった後にはげんざいを振舞い、こちらも喜ばれている。水・食料品・おむつなどの備蓄物もあり、見直しも行っている。一昨年地域の消防訓練に参加し、去年はなかったが今年は参加予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファ・ミーティング・内部研修にて常に職員に意識づけを行っている。人生の大先輩方であり、自分の親だったら、自分だったらと置き換えて接する事を心掛けている。特にトイレ介助には気を付けている。	トイレや入浴介助などのプライバシーに関わる時には、羞恥心に配慮した対応を心がけている。言葉かけも相手を敬った表現に気を配り、記録の際にも意識するようにしている。内部研修によって接遇・マナー・個人情報に関しての勉強会もしている。掲示などの写真利用に関しても事前に同意を頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の体調や気分を見ながら本人が望む過ごし方が出来るように職員が働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決まっているが当ホームの「個人個人に合わせた介護をしていきます。」にあるように利用者の心身状態を見ながら無理強いせず希望に沿った支援に勤めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が月1回ある。居室に洗面台があり鏡の前で整容・髭剃り・化粧をされたりしている。外出時は職員と一緒に外出着を選んで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食を希望される時にはパン食メニューにしたり、外食レクや近くの喫茶店では、出来る限り自分が食べたい物を選んで頂いている。	三食ともユニットごとに職員が調理しており、業者からのメニュー、食材配達があり、半調理済み食材も活用している。出来る事は手伝ってもらい、職員も同じものを一緒に食卓を囲んで和やかに会話を楽しみながら、食事をしてきた。食事の感想や食べたい物も聞き取り、配達をとめて一から内部で調理することもある。外食レクもあり、そこでも食べたい物を食べてもらっている。	

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表で確認し必要量は確保できるようにしている。食事は外注でカロリー計算がされており、主治医に相談しその方に合わせた量・形態で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人個人に合わせた口腔ケアを実施。定期の訪問歯科による口腔ケアと磨き方の指導を受け、治療もして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを排泄チェック表でつかみ、誘導や利用者の状態に合わせている。ご本人様の排泄場所をご自分で決めていただいています。	排泄チェック表が各ユニットの共通様式があり、1日1枚で全員分の水分摂取などと合わせて管理している。退院後24時間紙おむつだった方が生活リハビリなどによって状態改善し、リハパンのみの利用になった。チェック表を1週間程度で見直し、申し送りやミニカンファなどで話し合い、負担軽減に向けて全体で意識をもって取り組んでいる。トイレ介助時なども羞恥心に配慮して周囲にも気を配っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ1杯の水分を取って頂いたり、運動・腹部マッサージをし、便秘にならないように心掛けてはいるが、薬に頼らないといけない利用者もいるため、主治医に相談し対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴。入浴を拒まれる方には無理強いをせずに時間をずらしたり、日にちをずらしたりし、希望に沿った入浴を実施している。	1,2Fともほぼ共通の造りのユニットバスで、二方があいて2人介助でも行っている。掃除も行き届き、清潔にされている。拒まれた際も無理強いはしないが、週3回は入ってもらうように働きかける。使い慣れたシャンプーなどの希望があれば準備し、入浴剤は転倒の恐れがあるため今は使っていない。皮膚観察の場としても活かし、必要時には看護師にも伝え処置につなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はないが、音や照明を徐々に落としながら、安眠できる雰囲気作りをしている。休息は自由に居室で出来るように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は全職員が観覧し捺印し、後は個人記録にファイルしている。変更の際は連絡ノートに記入し申し送り時に口頭で伝えている。場合により業務日報のホルダーにはさみ、常に確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事やご本人様からの申し出により手伝って頂いている。買い物や外出で気分転換の支援をしている。		

H30自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気具合によって外出の予定日でもなくても出かけたり、花見や潮干狩りや山笠等時期・季節ごとに予定を立て実施している。	調査当日も花見で宮地嶽神社まで車に乗り合わせて外出レクをしていた。山笠やどんたく、菊花展、潮干狩りなど気候のいい時期に年6回程度外出行事を企画している。日常的にも近隣を散歩したり、買い物に行ったり、少人数でドライブしたり、個別で行ったりと柔軟に外出を楽しんでいる。出来る人には菜園の世話を手伝ってもらう事もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しいため、ホームでご家族様了承のもとお預かりしている。希望があれば、職員と一緒に買い物に行ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援体制はあるが、利用者様からの希望はない。ご家族からの電話があれば、取り次ぎ、手紙は読んで差し上げたりする。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁を利用して、季節感が出るような壁面工作や行事の思い出を貼っている。クラシック・唱歌等耳障りにならないようにし、ゆっくりとした時間を過ごして頂けるようにしています。	斜面地に立つことで非常に日当たりも良く、ホールも三方に窓があり、開放感がある。カウンターキッチンに面して食事のいい匂いが食欲を刺激する。調査時は雛飾りが飾られ、壁面にも楽し気なレクや行事の様子の写真がにぎわいを与えている。中には季節感が感じられるように、節目の季節行事の際に入れ替えも利用者と一緒にやって行っている。1Fは壁に窓枠を模した飾りを作り、写真を飾って疑似的な季節風景が楽しめるよう工夫されていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き利用者様同士でお話しを楽しまれたり、玄関にソファを置き、ひとりの時間を過ごし易いようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	貸出品以外の生活用品は利用者の状態を見ながら、危険のない範囲で使い慣れた物や好みの物を自宅から持ち込みをお願いしている。	木調の介護ベッド、クローゼット、洗面台は全室に備え付けられており、補助錠付きの掃き出し窓があり、テラスにも出られる。使い慣れた化粧台、仏壇、テレビなども持ち込みも自由出来る。フローリング調のビニルマットで暖かみがある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共用部分には手すりをトイレには「便所」お風呂場は「風呂」と掲示し、意識して頂けるように、各居室の入口は、利用者様に合わせて、ご家族様了解のもと写真やお名前を掲示させて頂いています。		